

奈良県立医科大学附属病院南側地区のまちづくりにおける (仮称)医大新駅の設置等に関する基本協定を締結しました。

報道発表資料

1. まちづくりについて

- 奈良県と橿原市とは、「医大および附属病院を核とする『橿原キャンパスタウン』の形成」を目指し、平成27年に「医大周辺地区」について、まちづくりに関する包括協定を締結。
- 令和4年11月には、奈良県、医大、橿原市、近鉄の4者で、医大附属病院南側地区(右図参照)のまちづくりに関する取組を推進することを目的に連携協定を締結。
- これまで、測量調査や文化財調査、さらに新駅利用者の需要予測や新駅の設置位置、構造等の検討などを行い、それを踏まえ、まちづくりについて関係者で協議を重ねてきました。
- また、新駅の西側を新アリーナの建設予定地とし、東側については渋滞対策として医大附属病院第1駐車場を拡張することとしました。

今般、医大附属病院前の新駅の設置に関し、県、市、近鉄の間で、費用負担や役割分担といった基本事項について合意に至り、令和7年3月28日に基本協定を締結しました。

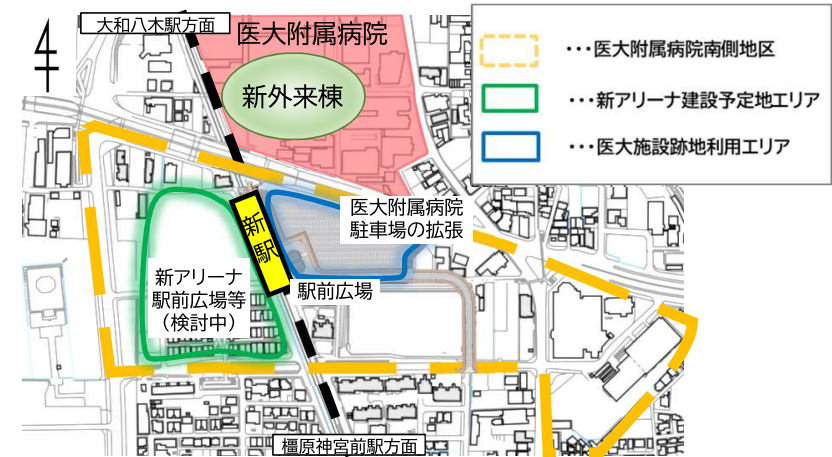
【基本事項の合意の主な内容】

- 新駅設置は、奈良県事業として、費用は県・市・近鉄で負担、
工事は、近鉄が施工。

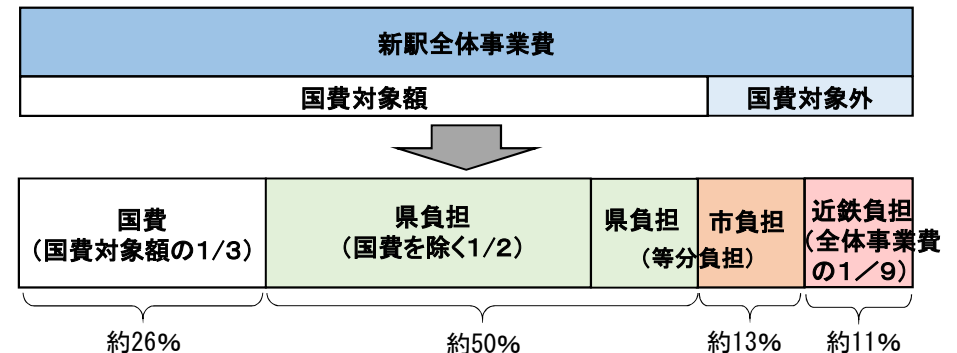
[費用負担割合の考え方]

- ・「都市・地域交通戦略推進事業」の活用を想定(補助率1/3)
- ・国費を除いた残額の1/2を県が負担
- ・全体事業費の1/9を近鉄が負担
- ・国費と上記の県及び近鉄の負担額を除いた残額について、
県と市で等分負担

<新駅と新駅周辺の整備イメージ>



<新駅の費用負担イメージ>



2. 今後の取組

- 新駅については、令和7年度に基本設計を進め、**令和12年度中の供用開始**を目指します。
- 引き続き、周辺の賑わいのあるまちづくりに向け、関係者で連携・協働して取り組みを進めます。